

令和4年度 西原小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた発達を目指し、自主・自立の精神を養い、日本国民の自覚をもって平和的な国家及び社会の形成者として貢献できる心身ともに健康な子どもを育成する。

〔目指す子供像〕

- 元気いっぱい活動する子・・・【元気】
- よく考え工夫する子・・・【がんばり】
- 思いやりがあり親切な子・・・【思いやり】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

西原小は、多くの史跡や文化財に囲まれ、地域人材にも恵まれた地域にあり、創立110年の長い歴史の中で地域の人々の熱い思いに支えられ育てられてきた学校である。

このような地域の特性を踏まえるとともに、新学習指導要領で示された「資質・能力の三つの柱」（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間力」）を育成するために、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、「地域に開かれた信頼される学校づくり」、「知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む教育の実践」、「チームとしての学校力を高めるための組織的な学校づくりの推進」を経営の基盤に据えて、教職員と家庭、地域が一致協力して確かな学力の育成、心豊かで心身共にたくましい児童の育成を目指す。

〔目指す学校像〕

心豊かでたくましく みんなで育て みんなで育つ 地域の学校づくり ～西原大家族の創造～

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全教職員が信頼と協調を基盤とし、互いに高め合う人間関係の中で、学校経営に参画し、活力のある教育活動を推進すると共に、地域学校園における各学校間の連携を深め、小中一貫教育の充実を図る。

- (1) 未来に向かって「生きる力(必要とされる資質・能力)」を育む学習指導の充実・・・【生きる力の育成】
- (2) 夢を育む教育活動の推進・・・【キャリア教育の推進】
- (3) 学年・学級経営の充実と個に応じた支援の強化・・・【学校生活の充実】
- (4) 教職員の資質向上と学校力を高めるための組織的な学校づくりの推進・・・【学校力の強化】
- (5) 学校・家庭・地域との連携を基盤とした開かれた学校づくりの推進・・・【信頼される学校】

〔一条地域学校園教育ビジョン〕

基本をしっかり身に付け、地域に生きる子供を育む一条地域学校園

4 教育課程編成の方針

1 教育基本法、学校教育法及び同施行規則、学習指導要領を踏まえ、栃木県教育委員会の指導の指針、宇都宮市教育委員会の「うつのみや“いきいき学校”プラン」「うつのみや元気っ子プロジェクト」「宇都宮市学校教育スタンダード」の示すところから従うとともに、地域とともにある学校づくりの趣旨を踏まえ、社会に開かれた教育課程を編成する。

2 教育目標の具現化を図るため、本校の実態（施設・設備・職員構成・地域環境）、児童の発達段階や特性、地域社会や保護者の願いなどを踏まえ、心豊かでたくましい児童の育成を目指し、知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む教育課程を編成する。

3 生きる力の基礎となる資質・能力を育成し、自ら学び、自ら考える力の育成と基礎的・基本的な学力の確実な定着と向上が図れるよう、各教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間・宇都宮学・プログラミング的思考力を育成する学習・外国語活動及び外国語科の特性を生かしながら、本校ならではの「学び続ける力」を核とした教科横断的な視点に立って教育課程を編成する。

4 小中一貫教育の趣旨を踏まえた各教科等の「育てたい力」を教育課程に反映させ、義務教育9年間を通じた学力保障につなげることができるようにする。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による目的の共有化と学校経営参画意識の醸成 <p>○校務・事務の適正化と勤務時間を意識した働き方改革の推進</p> <p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよく生きるために学び続ける児童の育成 <p>○主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善</p> <p>【児童生徒指導】</p> <p>○ほめて育て、認め合う指導の徹底とお互いを尊重し合える人間関係の確立</p> <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <p>○自ら体力を伸ばす態度や自己の健康管理能力の育成を図る指導</p>
--

6 自己評価（評価項目のAは市共通, Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。
 ※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価						
目指す児童の姿	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど進んで学習に取り組んでいる。」 <p>⇒児童の肯定的回答 90%以上</p> <p>⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①児童一人一人が主体的に授業に参加し、自分の考えをもって学習が進められるように授業の展開を工夫する。</p> <p>②児童が互いの意見を交流させることができる場の設定を意図的に設定する。</p> <p>③「学習の約束」の指導を徹底することで、聞き方や話し方の基本を身に付けさせる。</p> <p>④児童一人一人が「学び続ける力」を身に付けられるようカリキュラム・マネジメントに努め各種計画に反映させていく。</p> <p>⑤振り返り活動「今日の学び」を授業の終末時に行うことで学びの意識付けができるようにする。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>92.4</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>95.4</td> </tr> </table> <p>すべての対象において、肯定回答は指標を達成している。教職員においては、100%である。</p> <p>①今年度は学校課題として「よりよく生きるために学び続ける児童の育成」に取り組む、主として体育科を研究教科として、進んで学び続けていく児童の育成を目指して授業の実践を図ることができた。</p> <p>②児童が互いの意見をより活発に交流させることができるよう、ICT を活用することができた。</p> <p>③チャイムの合図を守るなど、基本的な学習態度や学習技能の定着を指導することはできたが、定着に個人差が見られた。個別の支援も必要であった。</p> <p>④カリキュラム・マネジメントシートを作成し、次年度の指導に生かせるようにした。</p> <p>⑤「今日の学び」を次時に生かせるような振り返りの仕方を工夫することができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①, ②, ③, ④, ⑤の取組を引き続き行う。今後もソーシャルディスタンスに配慮しつつ学習活動を進めていく。</p>	教職員	100	保護者	92.4	児童	95.4
教職員	100									
保護者	92.4									
児童	95.4									

A 2 児童は、思いやりの心をもって
いる。

【数値指標】

・全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒教職員の肯定的回答

90%以上

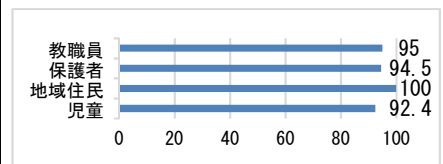
①学校生活全般にわたり、他者に対して優しく接する行動や思いやりのある行動が見られる児童を賞賛するとともに、すべての教育活動の場で支援・指導する。

②道徳教育の充実を図る。

③主に学級活動や朝や帰りの会において、学級での認め励まし合う活動を通して思いやりの心を育む。

B

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成している。地域住民においては、100%である。

①各学年・学級で思いやりのある行動が見られる児童の称賛や声掛け、指導を行ったことで、指標を達成した。

②ローテーション道徳や道徳授業の充実により優しく接する行動が定着した。

③学級で認め励まし合う活動を設けたことにより温かい雰囲気づくりができた。

【次年度の方針】

①, ②, ③を引き続き継続し、学校生活全般にわたり、支援・指導していく。

A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。

【数値指標】

・全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒教職員の肯定的回答

90%以上

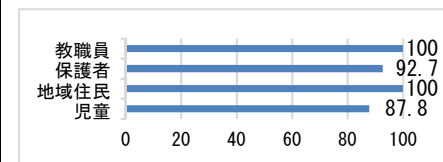
①「学習の約束」や「西原小よい子の一日」、「西原小みんなのやくそくGGO」の指導徹底を図るとともに、児童自身が自分の生活を振り返り、規範意識を高める機会を定期的に設ける。

②生活当番活動を通して、日常の生活の様子を把握し、校内の巡視等を行うとともに、実生活の場で直接指導する。

③学校生活に関わるルールを整理し、教職員も児童も分かりやすく示すことで、全教職員が共通理解のもと、同一歩調で指導にあたる。

B

【達成状況】



教職員・保護者・地域住民において、肯定回答は指標を上回っているが、児童においては、指標を2.2ポイント下回っている。

①「西原小のよい子の一日」を抜粋し、重点化したものをタブレットで共有し、定期的に確認することで規範意識を高めた。

②生活当番活動を通して、業間・昼休み等に注力して指導を行った結果、遊びから学習への切り替えを早くできる児童が増えた。

③「西原小のよい子の一日」を児童の実態に即した分かりやすいルールに見直し掲示することにより、新たな共通意識をもとに規範意識が高まり、それを日常生活で実践できた児童が増えた。

【次年度の方針】

学校生活に関わるルールを整頓し、教職員も児童も分かりやすくすることで、学校でのルールを明確化して指導にあたる。生活当番の見回り指導は継続する。児童が自分たちのきまりを意識し、自身の行動を振り返ったり、ルールの見直しに主体的に関わっていくようにする。

A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。

【数値指標】

・全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒保護者の肯定的回答

90%以上

⇒地域住民の肯定的回答

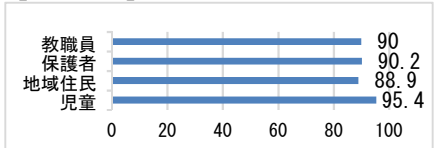
90%以上

①児童会活動を中心とした「朝のあいさつ運動」や「地域学校園あいさつ運動」を実施する。

②日常的に「こんにちは」「ありがとうございます」等の挨拶が自ら進んでできるよう、教職員から積極的に声をかけを行う。

③来校者や校外でも挨拶がしっかりできるように、具体的に指導していくとともに、機会を捉えて保護者や地域にも協力を呼びかける。

【達成状況】



教職員・保護者・児童において、肯定回答は指標を達成しているが、地域住民においては、指標を1.1ポイント下回っている。

①あいさつ運動を運営する委員会の児童の様々な取り組みにより挨拶への意識づけができ、挨拶を積極的にできる児童が増えた。

②教職員から児童への挨拶を積極的に行うとともに、始業終業の挨拶の仕方を確認指導した。

③来校者や校外での活動が増え、来校者や校外で挨拶できる児童も増えてきた。

【次年度の方針】

各種の挨拶指導を行いあいさつ運動の日常化を図り、地域で登下校の際にも小中学生間で挨拶を交わせるようにする。

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。

【数値指標】

・全体アンケート「私（児童）は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒教職員の肯定的回答

90%以上

⇒保護者の肯定的回答

90%以上

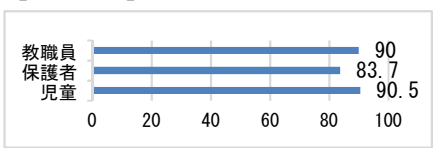
①校長表彰や各種表彰の機会を生かし、児童一人一人のよさを認めることで、活動意欲を喚起する。

②児童一人一人の目標と目指す子ども像を関連付けることで「元気・がんばり・思いやり」を明確にして取り組んでいけるよう支援する。

③児童が頑張る様子を各種たより等で保護者に伝えることで、家庭との連携強化を図る。

④夏休み前に記入する自己評価シートやキャリアパスポートなどを活用して、児童が頑張っている様子や努力の成果が保護者に伝わるようにしていく。

【達成状況】



教職員・児童において、肯定回答は指標を達成しているが、保護者においては、指標を6.3ポイント下回っている。

①元気・がんばり・思いやりの学校目標を子供たちに浸透させることができた。

②学級目標や個人の目標は、すべて学校目標を下ろして考えさせたことにより、児童が自分の目標を明確にもちながら、粘り強く活動することができた。

③学校 HP に児童の頑張る様子の記事を掲載することでアクセス数が増え、コロナ禍でありながらも家庭に学校の様子を周知することができた。

④キャリアパスポートに保護者からの応援コメントを記入して返却してもらうことで、児童の頑張りを家庭に伝え、さらなる児童の意欲につなげることができた。

【次年度の方針】

コロナの感染状況に応じて今年度の取組みを継続して実施していくことで、定着を図り、児童が目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む態度を育てる。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。

【数値指標】

・全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒教職員の肯定的回答

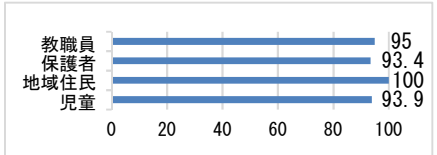
90%以上

①児童一人一人の安全に対する意識が高められるよう、具体的な場面での安全指導を充実させる。

②定期健康診断の結果を活用し、自分の体や健康に関心をもたせる。

③掲示物「コロナウイルスをやっつける」や健康委員会呼びかけ、換気チェック等、本校ならではの新型コロナウイルス感染症対策を周知徹底し、家庭とも連携して感染防止に努める。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成している。地域住民においては、100%である。

①児童の実態や学校生活の中での課題を基に安全指導を行った。避難訓練や降雨安全教室などの行事を通して、いつも安全に生活できるよう指導を行った。

②保護者と連携し、自分の体やよりよい生活習慣についての意識が高まるよう努めた。

③基本的な感染症対策を意識しながら日々の学校生活を送ることができた。また、家庭と連携し、校内の感染防止に努めることができた。

【次年度の方針】

児童の実態や課題について教職員で共通理解を図り、児童が健康で安全な生活を送ることができるよう継続して指導を行う。

A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。

【数値指標】

・全体アンケート「私（児童）は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

⇒児童の肯定的回答

85%以上

⇒教職員の肯定的回答

85%以上

⇒保護者の肯定的回答

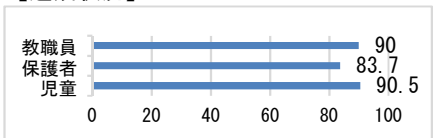
85%以上

①年間を通じた地域の行事等の周知に努め、地域の関係団体との連携を図りながら、地域行事への参加を呼びかけ、地域の一員としての自覚を高めるよう、支援する。

②教職員が地域関連行事等に可能な限り参加することにより、児童の地域活動への参加を促す。

③地域の行事の振り返りを各種たより等で紹介して、児童が夢や目標をもって社会に貢献しようとしている意思が保護者に伝わるようにする。

【達成状況】



教職員・児童において、肯定回答は指標を達成しているが、保護者においては、指標を1.3ポイント下回っている。

①コロナ禍でありながらも参加可能な行事には学年だより等で周知することで、地域の一員としての自覚を意識付けることができた。

②働き方改革を意識した行事への参加方法について検討をしていく。

③学校だよりや学校HPを通して地域の行事について引き続き周知していく。

【次年度の方針】

継続して、児童が地域行事に参加するよう呼びかけていくと同時に地域行事について発信していく。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。

【数値指標】

・全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒教職員の肯定的回答

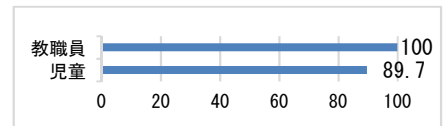
90%以上

①英語の単語やフレーズに慣れ親しませるために、意図的に日常生活の中で使うようにする。

②校内研修にALTとの英会話研修の時間を確保し、教職員の英語力向上を図る。

③中学校からの高学年への英語乗り入れ授業を月1回実施することで、児童の英語を使ったコミュニケーション力の向上を図る。

【達成状況】



教職員において、肯定回答は100%で指標を達成しているが、児童においては、指標を0.3ポイント下回っている。

①ALTと授業の構成を十分検討し、授業を実践することができたが、日常的に英語を使うには至らなかった。

②英会話研修の時間の確保が難しかったが、授業の打合せなどでALTと英語でコミュニケーションをとることができた。

③中学校教諭の指導により、英語学習における小中連携を図ることができた。専門性の高い指導により、児童がさらに英語に慣れ親しむことができた。

【次年度の方針】

①について、日常的に英語を使用することは難しいため、削除する。

②は継続して実施する。

③は継続できるかどうか検討する。

A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。

【数値指標】

・全体アンケート「私（児童）は、宇都宮の良さを知っている。」

⇒児童の肯定的回答

85%以上

⇒教職員の肯定的回答

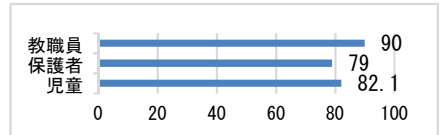
85%以上

①「ふるさとウォークラリー」等を通して歴史的な文化財や史跡が点在する自分の学区に興味をもたせ、宇都宮のよさに気付かせる。

②視点を「西原」から「宇都宮」に広げ、郷土の歴史や文化への興味・関心を高めるように努める。

③児童の活動や振り返りを1人1台端末のクラスルームに載せるなどして、児童の学びを保護者に知らせる工夫をする。

【達成状況】



教職員において、肯定回答は指標を達成しているが、保護者においては、指標を6ポイント、児童は2.9ポイント下回っている。

①「にしはらふるさとウォークラリー」の活動を通して、身近にある文化財や史跡について学ぶことができた。

②5・6年生においては、「宇都宮学」を適切に取り組むことができた。

③クラスルームは主に児童が利用しているため、活用はできなかった。

【次年度の方針】

「にしはらふるさとウォークラリー」での学びを、2年生の生活科や3年生の総合的な学習の時間の学習にも広げ、より深くよさを感じさせていく。

①、②の取組を次年度も継続していくとともに、宇都宮のよさについて学ぶ児童の姿を学校ホームページで保護者への周知を図る。

A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。

【数値指標】

・全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒教職員の肯定的回答

90%以上

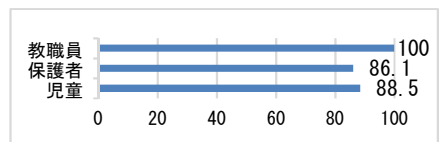
①学習場面に合わせてパソコンやタブレット等のICT機器や図書等を学習に効果的に活用する。

②学校図書館司書業務嘱託員と連携し、学習に関連する図書の紹介と図書館の利用喚起を図る。

③放課後研修を位置づけたり、ITとして授業実践を行ったりして、ICT支援員の効果的な活用を図る。

④情報教育主任による校内への情報発信やICT支援員との研修において教職員のタブレット活用の教育実践力の向上を図り、児童が「日常の文具」としてタブレットを活用できるようにする。

【達成状況】



教職員において、肯定回答は100%で指標を達成しているが、保護者においては、指標が3.9ポイント、児童は1.5ポイント下回っている。

②学校図書館司書業務嘱託員と連携を図りながら、南図書館なども活用し、全年齢において教科や単元に合わせた図書を活用することができた。

③④情報主任やICT支援員を中心にICT研修を実施し、職員のICT活用能力が向上し、児童のタブレットの有効活用につなげることができた。

【次年度の方針】

②学校図書館司書業務嘱託員との取組を次年度の学年担任に引き継ぎ、指導に生かす。図書を活用して学習する様子を、たよりで情報発信する。

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。

【数値指標】

・全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

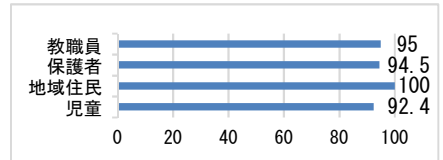
⇒教職員の肯定的回答

90%以上

①地域の高齢者の方々に学習支援や行事等への参加を可能な限り呼びかるとともに、手段を工夫して、交流する場を設ける。

②日々の教育活動全般を通して、他者を思いやる気持ちの醸成に努める。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成している。地域住民においては、100%である。

①にしはらの日や学習活動などで、高齢者との交流をもつことができ効果的だった。

②道徳や総合などの学習や学校生活の中で、高齢者に対する感謝や思いやりについて考えさせることができた。

【次年度の方針】

①②を引き続き継続し、学習支援や行事の中で、感謝やいたわりの心を育てる。

A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。

【数値指標】

・全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について関心をもっている。」

⇒児童の肯定的回答

85%以上

⇒教職員の肯定的回答

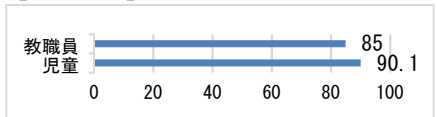
85%以上

①環境問題を教科横断的に捉え、日常生活と深く結びついていることに気付かせるとともに、日常の具体的な行動に結び付けられるよう、働きかける。

②「持続可能な社会」について児童の関心を高めるため、SDGsに係る掲示物の各教室の掲示や、各種便りによる啓発に努める。

③児童が持続可能な社会について自ら意識して取り組むことができるような活動内容を工夫する。

【達成状況】



教職員・児童ともに肯定回答は、指標を達成している。

①教科や行事等の機会を捉えて指導することができた。

②SDGsを表す掲示物やシールなどを校内各所や教室内に掲示したり保護者への印刷物に掲載したりすることで、持続可能な社会について意識を高めることができた。

③各種実施計画書にSDGsのアイコンを掲載することで、職員から児童にSDGsについて浸透してきた。

【次年度の方針】

児童が持続可能な社会について自ら意識して取り組むことができるような活動内容を係活動や委員会活動で工夫する。

B1 児童は、自分の考えが深まり、学びの実感が得られるノートづくりをめざしている。

【数値目標】

・全体アンケート「私（児童）は、授業中大切なことや自分の考えをノートに書いている。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

・全体アンケート「教職員は、児童が自分の考えをうまく表せるよう授業の展開や指導方法を工夫している。」

⇒教職員の肯定的回答

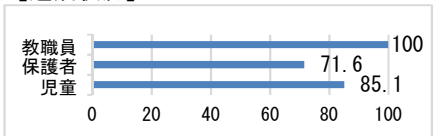
90%以上

①思考の変容が見える板書を工夫したり、お互いの考えを交流させたりする活動などを取り入れながら考える力を伸ばす。

②思考を深めたり、学びを蓄積したりするノートづくりへの支援に努め、児童が自らの学びを実感できるような振り返り活動を充実させる。

③1人1台端末を活用してクラスルームに授業の取組や児童のノートをあげることで、保護者にも伝わるようにしていく。

【達成状況】



教職員において、肯定回答は100%で指標を達成しているが、児童・保護者においては、指標を下回り、保護者と教職員とは、20ポイント以上の差がある。

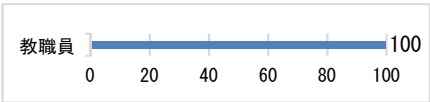
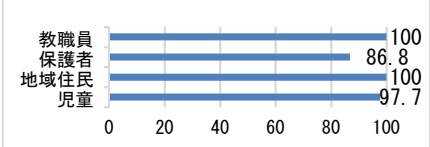
①学習の流れが分かる板書を工夫したり、思考力が深まるような活動の場を設定したりできた。特に研究教科である体育科の授業において、思考力が深まるような活動の場を設定できた。

②特に体育科の授業については、学習のつながりが見られるノートづくりをすることができた。

③クラスルームは主に児童が利用しているため、活用はできなかった。

【次年度の方針】

①、②を引き続き行う。来年度は体育科に限らず、他教科においても思考力が深まるノートづくりを進めていく。

	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 <p>⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①児童の実態を的確に捉え、全教職員が共通理解を図る場を適宜設定する。</p> <p>②短期的な目標、中期的な目標の共有を図るとともに、保護者、S C、関係機関と連携しながら、一貫性のある支援ができるよう、工夫する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>教職員において、肯定回答は100%で指標を達成している。</p> <p>①児童の実態を確認する場を設けることで特別な支援を必要とする児童を確認し、支援の方向性を見いだすことができた。</p> <p>②個別支援計画を活用した情報の共有や迅速なケース会議の実施などにより、見直しをもって適切な支援を行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①、②を引き続き行うとともに、ケース会議・支援委員会をさらに充実させ、関係機関と連携を図っていく。</p>	教職員	100						
教職員	100										
<p>目指す学校の姿</p>	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれている。」 <p>⇒児童の肯定的回答 90%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 <p>⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①「西原小学校いじめ防止基本方針」について共通理解を図り、教職員は児童理解を深め、信頼関係の構築に努める。</p> <p>②「いじめゼロ強化月間」を設定し、児童会を中心とした児童主体の取組を行うとともに、授業や生活のあらゆる場面をとらえていじめを許さない態度や実践力を育て、活動の様子を保護者に積極的に伝えていく。</p> <p>③児童や保護者からの相談に誠意をもって対応するとともに、指導の記録を残す。</p> <p>④学年の発達の段階や状況に応じた、「さん」付けの呼び方により、いじめを生まない風土づくりに努める。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>86.8</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>97.7</td> </tr> </table> <p>教職員・地域住民・児童において、肯定回答は指標を達成しているが、保護者においては、指標を3.2ポイント下回っている。</p> <p>①いじめ防止の基本方針について共通理解を図ったことで、児童が困っている時に相談しやすい雰囲気づくりができた。</p> <p>②児童会が中心となっていじめゼロ集会などを行い、作成した掲示物を昇降口に掲示し、意識の継続を図った。また、いじめ防止について考え、取り組んだことでいじめを許さない態度が育っていると考えられる。</p> <p>③児童や保護者からの相談に誠意をもって対応したことで、児童や保護者からの信頼関係ができた。</p> <p>④「さん」付けの呼び方を励行したことで、お互いを尊重し合う雰囲気づくりができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①、②、③、④を引き続き継続するとともに、ホームページ等で取り組みの様子について児童や保護者に伝えていく。</p>	教職員	100	保護者	86.8	地域住民	100	児童	97.7
教職員	100										
保護者	86.8										
地域住民	100										
児童	97.7										

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。

【数値指標】

・全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

・全体アンケート「教職員は、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」

⇒教職員の肯定的回答

90%以上

⇒保護者の肯定的回答

90%以上

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。

【数値指標】

・全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」

⇒教職員の肯定的回答

90%以上

A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。

【数値指標】

・全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

・全体アンケート「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」

⇒保護者の肯定的回答

90%以上

⇒地域住民の肯定的回答

90%以上

①学校として組織的な不登校対応について共通理解を図るとともに、児童の実態や家庭環境等を十分把握した上で、個に応じた支援や指導を行う。

②児童一人一人が「居がい」を感じる学級づくりを基本としながら、さまざまな活動の中で、成就感や満足感を味わうことができるような学級経営を推進する。

①児童の実態を的確に捉え、日本語指導講師やボランティアと連携しながら、当該児童や保護者への計画的・継続的支援に努める。

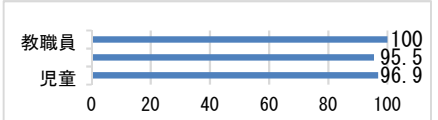
①校長表彰の機会を活用するなど、児童一人一人の頑張りやよさを認めたり、善行を奨励したりする場を設定し、認め励ます教育を推進する。

②多くの児童が認められ活躍できる機会を増やし、特別活動を中心に児童が生き生きと主体的に活動し、楽しく学べるようにする。

③本校ならではの取組や活動の様子を反映させた作品等の掲示を工夫することにより、学校全体に楽しい雰囲気を醸成する。

④ペア学習やグループ学習など活動形態を適宜工夫し、主体的に活動する場面を多く設定することで、満足感が味わえるようにする。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成している。教職員においては、100%である。

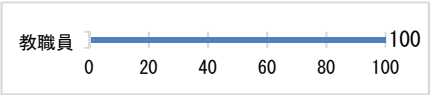
①欠席状況等の情報を共有し日々の生活の様子から不登校の兆候を素早く見極め、個に応じてたくさんの教師が関わり支援を行うことができた。

②児童一人一人の実態に合わせた支援を行ってきた。自己肯定感や自己有用感を味わえる学級経営を推進することができた。

【次年度の方針】

引き続き①、②を行うとともに、ケース会議を適切に開き組織的に支援を行っていく。

【達成状況】



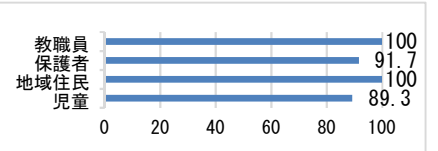
教職員において、肯定回答は100%で指標を達成している。

①児童の実態を考え、保護者や児童が安心して学校生活を送れるように計画的支援に努めた。

【次年度の方針】

①を継続して行う。

【達成状況】



教職員・保護者・地域住民において、肯定回答は指標を達成しているが、児童においては、指標を0.7ポイント下回っている。

①表彰朝会を通して児童の活躍を称賛し、認め励ます教育を推進することができた。

②学級活動・児童会活動において、児童が企画した活動を行うことで主体的な活動を促すことができた。

③図書室前や渡り廊下に学習の成果物を掲示するなど、各学年に合わせた工夫した掲示ができていた。

④特別の教科道徳においてもグループ学習を積極的に取り入れて意見が活発に交換されるようにした。

【次年度の方針】

児童の活動形態を適宜工夫することで、主体的に活動することができるようにする。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。

【数値指標】

・全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」

⇒児童の肯定的回答
90%以上

・全体アンケート「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」

⇒教職員の肯定的回答
90%以上

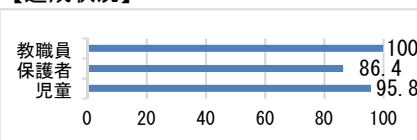
①学力調査に基づいた基礎基本の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的な学習の展開と発問の工夫及び振り返り活動の充実に努める。

②発達の段階や個性に応じた学習支援を大切にし、家庭との連携を図り、家庭学習の習慣化を目指す。

③教職員が連携し、学年間で定期的に教科指導の在り方や教材研究について話し合う機会を設け、よりきめ細やかな指導を目指す。

④教科担任制の導入により、それぞれの専門性を生かして質の高い授業を展開することによって、児童の学力向上を目指す。

【達成状況】



教職員・児童において、肯定回答は指標を達成しているが、保護者においては、指標を3.6ポイント下回っている。

①学習のめあての明示、発問の工夫、振り返り活動の充実等により、分かる授業を実践することができたが、授業内容の理解度を見取ることができるよう振り返りの仕方を工夫する必要がある。

②個に応じた学習支援の充実に向けて、担任と連携し、かがやきルームでの個別支援を児童の状況に合わせて進めることができた。

③学年間・ブロック間で教科指導や教材研究について話し合い、連携を取って指導を進めることができた。

④指導教科が焦点化されることにより、より深く教材研究でき、児童の学習意欲が向上した。

【次年度の方針】

①児童の意欲を持続させるため、振り返りの仕方が単調にならないよう工夫していく。

②かがやきルームと家庭との連携の仕方について、担任や保護者と話し合いながら進めていく。

主な具体的な取り組みは今年度と同様の①、②、③、④を行い、学力向上を図っていく。

A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。

【数値指標】

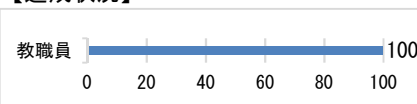
・全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」

⇒教職員の肯定的回答
90%以上

①職員全員が、それぞれの立場で積極的に児童と関わりながら、各自の専門性を生かして職務を遂行する。

②かがやきルーム指導員、学校図書館司書、学校栄養士、学校業務員等、それぞれの勤務形態の可能な範囲で、児童会活動や職員研修等への参加を呼びかけ、「チーム学校」を推進する。

【達成状況】



教職員において、肯定回答は100%で指標を達成している。

①教職員が各自の専門性を生かし、校内研究やICT活用等において互いに学び合いながら職務を遂行することができた。

②それぞれの専門性を生かして学校教育に積極的に関わり、「チーム学校」の推進に努めることができた。

【次年度の方針】

職員間の連携を図りつつ、各自の専門性を生かして勤務に当たり「チーム学校」を推進していく

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。

【数値指標】

・全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」

⇒教職員の肯定的回答
90%以上

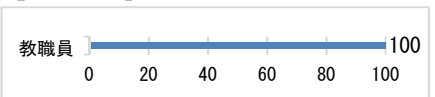
①学校図書館司書、かがやきルーム指導員、学校栄養士、ALT等の専門性を生かした校務の分担を工夫する。

②勤務時間の自己管理を通して、勤務時間を意識した働き方に努めるとともに、定時退勤や年休取得を進め、働き方に対する意識の変革を図る。

③趣旨や目的を踏まえながら業務内容の縮減が可能な学校行事を見直したり、月に1回以上のリフレッシュデーを各自設定し、実行したりする。

④西原小のとびらや掲示板、HPの活用により、可能な限り業務を縮減し、ペーパーレス化を進める。

【達成状況】



教職員において、肯定回答は100%で指標を達成している。

①必要に応じて、専門の立場を生かすことができた。さらに効率的な働き方ができるように努める。

②勤務時間を意識した働き方は徐々に実践が進んでいる。

③リフレッシュデーを意識した働き方が徐々にできるようになってきた。業務内容の縮減については校務分掌ごとに見直すことに課題がある。

④打合せ内容や職員会議の資料を掲示板やポータルサイトに掲載したり、保護者への各種便りを学校HPに掲載したりすることで業務を縮減しペーパーレス化を推進することができた。

【次年度の方針】

①②③④を継続して実施し、行事や業務の内容を見直し、縮減を引き続き進める。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。

【数値指標】

・全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」

⇒保護者の肯定的回答
90%以上

⇒地域住民の肯定的回答
85%以上

①地域学校園一体となったあいさつ運動を展開する。

②情報モラル教育に対して共通理解のもと保護者への啓発を行う。

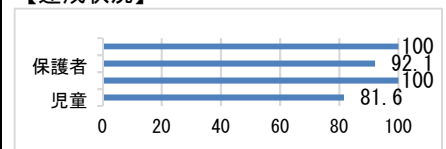
③地域学校園お弁当の日の実施や投げる力や走力アップへの取組、低視力対策などを連携して行い、地域や保護者にその情報を発信する。

④各教科等における地域学校園「育てたい力」を意識しながら、日々の学習活動に取り組むとともに、各種データに基づく検証を行う。

⑤各種便りや学校HPで地域や保護者への情報発信を継続することで、「小中一貫教育・地域学校園」の取組について、周知する。

⑥各種便りや学校HPで地域や保護者への情報発信を継続することで「小中一貫教育・地域学校園」の取組について、周知する。

【達成状況】



教職員・保護者・地域住民において、肯定回答は指標を達成しているが、児童においては、指標を8.4ポイント下回っている。

①コロナの感染状況に応じながら、可能な範囲で実施することができた。

②情報モラルについて職員間で共通理解をしっかりと図った上で、保護者に対して資料を配付する等して啓発することができた。

③各種便りや学校HPで取組のようすを掲載したり、各学年の学年だよりに体育コーナーを設けたりして地域や保護者に情報を発信することができた。

④各教科等の「身に付けたい力」を洗い出し、小中一貫を見通して系統的な目標を作成することができた。

⑤学校HPや学年だよりで中学校からの乗り入れ授業について知らせた。

【次年度の方針】

各種便りや学校HPで地域や保護者への情報発信を継続することで、「小中一貫教育・地域学校園」の取組についてより周知できるようにする。

A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。

【数値指標】

・全体アンケート「学校は、家庭、地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」

⇒保護者の肯定的回答

90%以上

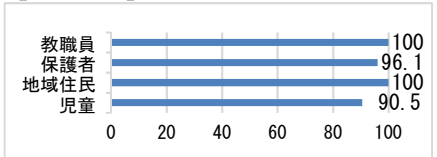
⇒地域住民の肯定的回答

90%以上

①年間計画に位置付けて、地域の人材・教材・施設等の地域の教育資源を有効に生かし、地域と共に育つ学習の充実に努める。

②コロナ禍後の本校教育活動を見据え、保護者や地域の意向を十分に反映させた上で、協力を依頼する。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成している。教職員・地域住民においては、100%である。

B ①地域コーディネーターと連携しながら、各教科や生活科・総合の学習の中で地域の教材・施設・人材等を有効に活用し学習に生かすことができた。

②地域ボランティア年間計画を学年ごとに作成し、次年度以降も教育活動が充実するようにした。

【次年度の方針】

コロナウイルス感染症予防対策を取って実施可能な活動を工夫しながら行い、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開を図っていく。

A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。

【数値指標】

・全体アンケート「学校は、家庭、地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」

⇒保護者の肯定的回答

90%以上

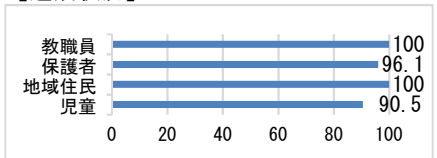
⇒地域住民の肯定的回答

90%以上

①保護者やサポーター会議（魅力ある学校づくり地域協議会）、地域団体等に本校のグランドデザインを分かりやすく示すことで、地域に開かれた学校づくりに努める。

②教職員が可能な限り地域の行事に参加し、相互理解が深まるよう努める。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成している。教職員・地域住民においては、100%である。

B ①社会に開かれた教育課程を目指し、サポーター会議等で本校の教育方針を保護者や地域に分かりやすく伝えることに努めた。

②働き方改革を意識した教職員の行事への参加方法について検討する。

【次年度の方針】

継続して、可能な限り家庭・地域・企業と連携・協力していく。

A 24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。

【数値指標】

・全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」

⇒保護者の肯定的回答

90%以上

⇒地域住民の肯定的回答

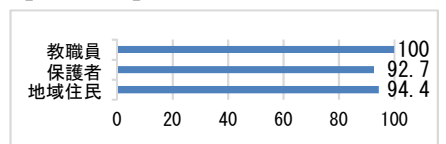
90%以上

①日常的に施設設備の安全に目を配り、修繕が必要な場合は迅速に対応する。

②定期的に安全点検を実施するほか、生活当番を中心として日常の校内巡視を行い、安心して生活できる環境づくりに努める。

③校内施設の担当者や使用者は、普段から物品管理、整理整頓を行い、安全で安心できる環境づくりに努める。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成している。教職員においては、100%である。

①校舎の老朽化が進み、修繕を必要とする箇所が多数あったが、その都度、可能な範囲で修繕することができた。

②生活当番を中心に校内の見回り等を行い、児童が安全な生活を送ることができるよう努めた。

③校内の物品の整理整頓や安全管理についての意識は高まってきている。今後も職員全体で共通理解を図り取り組む必要がある。

【次年度の方針】

①②③の具体的な取り組みを引き続き行い、より安全で整然とした環境づくりに取り組んでいく。

A 25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。

【数値指標】

・全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒教職員の肯定的回答

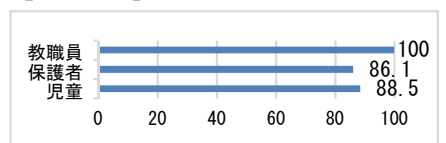
90%以上

①大型テレビやパソコン、タブレット等の有効活用に努め、児童がICT機器に触れる機会を多く持てるようにしたり、学習指導に役立てたりする。

②計画的に図書・教材等選定委員会を開き、分類ごとの過不足や利用状況等をもとに、図書室の利便性を高める手立てを検討する。

③GIGAスクール構想について保護者への周知に努めたり、環境整備や児童のスキル向上を目指したりする。

【達成状況】



教職員において、肯定回答は100%で指標を達成しているが、保護者においては指標が3.9ポイント、児童は、1.5ポイント下回っている。

①大型テレビ、パソコン、タブレットを日常的に活用できた。今後も効率的な活用に努めていく。

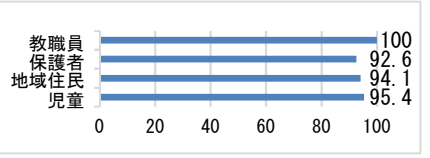
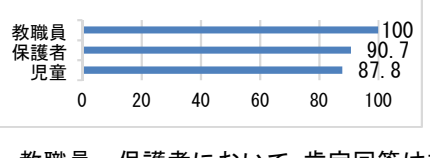
②児童の実態を参考にしながら、購入図書の選定を行うことができた。コロナ禍の影響により、高学年の読書離れや図書室を自由に使える時間の確保が難しかった。

③端末を毎日持ち帰ることにより、保護者の協力を得ることができた。校内ICT研修により、職員や児童のスキル向上につなげることができた。

【次年度の方針】

①、②、③の取組を継続して行う。
②高学年の読書離れを解消するために、選書や読書イベントを工夫する。図書資料とICTを関連させて指導に生かしていくことで、更なる有効活用を目指していく。

図書を活用して学習する様子を、たよりで情報発信する。

	<p>B2 学校は、楽しく学べる地域とともにある学校づくりに努めている。</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体アンケート「先生は、地域の人と協力しながら、楽しい学校になるように工夫している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 全体アンケート「学校は、家庭・地域と信頼関係を築きながら活動のめあてを明確にして教育活動を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上 	<p>①うつのみやオープンスクールをはじめ、学校公開（授業参観や集会活動、学校行事等）の機会を充実させ、地域とともに歩む「地域の学校づくり」の取組を参観してもらう機会を設ける。</p> <p>②学習内容や学校での諸活動の様子を、定期的に各種便りやHPなどを通して、保護者や地域に対し分かりやすく情報発信し、本校の教育活動への理解を促進する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>すべての対象において、肯定回答は指標を達成している。教職員においては、100%である。</p> <p>①コロナウイルス感染症対策のため、積極的な学校公開の機会を設けることができなかったが、家庭や地域と連携し教育活動を実践することができた。</p> <p>②学年便りやHP等を通して本校の情報を公開し、本校の教育活動への理解が深まるよう努めることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>引き続き学校便りやHP等を通して本校の多くの情報を公開し、教育活動への理解をさらに深めることができるように努力する。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B3 児童自ら判断し、主体的に取り組むことができる活動の充実に努めている。</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体アンケート「私（児童）は、自分で判断し工夫して学校行事や係活動などに取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 全体アンケート「教職員は、児童自ら判断し活動できるような場の設定や支援を行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 	<p>①活動の目的をきちんと捉えさせ、自分の活動をイメージさせた上で、より具体的に自分のめあてをもたせる。</p> <p>②児童が自ら計画・実践できる機会を増やし、より主体的に活動できるように支援する。</p> <p>③学校行事や係活動の目的と目指す子ども像を関連付けることで、児童が目的を意識した取組が図れるように支援する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員・保護者において、肯定回答は指標を達成しているが、児童においては、指標を2.2ポイント下回っている。</p> <p>①発達段階に応じて、それぞれの活動のねらいを分かりやすく伝えることで、自分なりに見通しをもって活動させることができた。</p> <p>②学校行事や縦割り班活動などの機会が増え、児童自らが計画・実践できる場面を設け、一人一人が自分で考えながら活動できるように務めた。</p> <p>③学校行事や各計画に目指す子ども像を関連付け、教師側が児童に意識して指導できた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>児童同士の協働的活動をする機会・場所の制限がなくなってきたので、次年度は、児童が主体的に取り組めるような場の設定や支援を行う。</p>

B4 児童は目標をもって自分の健康や体力の向上に進んで取り組んでいる。

【数値目標】

・全体アンケート「私（児童）は、めあてをもって自分の健康や体力の向上に進んで取り組んでいる。」

⇒児童の肯定的回答

90%以上

・全体アンケート「教職員は、児童の健康や体力の向上のための活動を工夫して行っている。」

⇒教職員の肯定的回答

90%以上

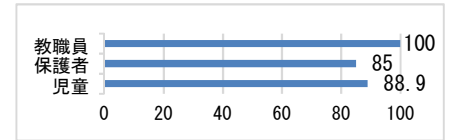
①児童一人一人の状況を把握した上で、保健指導や体育の授業の充実を図り、自分の健康や体力に関心をもたせる。

②委員会が主催する体育的イベントへの積極的参加を促し、運動の日常化を図る。

③教科体育の充実を図り、そこで得た学びを学校生活や家庭の時間に広げるために、児童会や家庭と連携しながら活動を進める。

④学年だよりや体育の宿題を通して、健康や体力向上の取組を家庭へ広げていく。

【達成状況】



教職員において、肯定回答は100%で指標を達成しているが、保護者においては、指標が5ポイント、児童は1.1ポイント下回っている。

①体育ノートやクロームブック、振り返りの充実等、授業づくりに関する研究を進めた結果、自分に合った目標を設定したり、できる運動に取り組んだりする児童が増えた。

②感染症や熱中症予防のため、活動の制限はあったものの、業間の外遊び等の啓発を行うことができた。取り組みを継続しつつ、体を動かす習慣作りを全校体制で取り組んでいく必要がある。

③クロームブックの活用等、学校での取り組みを家庭に生かせる方法を実践できた。全校体制で効果的にいえる方法について今後も検討していきたい。

④学年だよりや体育の宿題を通して、健康や体力向上の取組を家庭に知らせることができた。

【次年度の方針】

引き続き、教科体育の充実を図り、そこで得た学びを学校生活や家庭の時間に広げるために、児童会や家庭と連携しながら全校体制で活動を進めていく。

また、学年だよりや体育の宿題を通して、健康や体力向上の取り組みを家庭へ広げられるようにする。

B

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

◎肯定的回答率が複数の指標を上回り、良好と考えられる項目

- A01 「児童は、進んで学習に取り組んでいる」
- A02 「児童は、思いやりの心をもっている」
- A06 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」
- A11 「児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている」
- A13 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」
- A15 「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている」
- A16 「教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている」
- A17 「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」
- A18 「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」
- A19 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」
- A22 「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」
- A23 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる」
- A24 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」
- B02 「学校は、楽しく学べる地域とともにある学校に努めている」

◎肯定的回答率が複数の指標を下回り、今後の課題と考えられる項目

- A05 「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 (保護者 -6.3 ポイント)
- A09 「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 (保護者 -6.0 ポイント)
- A10 「児童は、ICT 機器や図書等を学習に活用している。」 (保護者 -3.9 ポイント)
- A21 「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 (児童 -8.4 ポイント)
- A25 「学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。」 (保護者 -3.9 ポイント)
- B01 「学校は児童が自分の考えをもち、表現できるようなノート作りの指導をしている」 (児童 -4.9 ポイント)
- B04 「児童は目標をもって自分の健康や体力の向上に進んで取り組んでいる。」 (保護者 -5.0 ポイント)

1 学校運営について

本年度は、昨年度の経験を活かし感染症予防対策を取りながら、コロナ禍でもできる範囲で「地域に開かれた信頼される学校づくり」の具現化を目指した。保護者や地域の方々における毎日の登下校時や校外学習時の見守り、新川桜並木清掃への協力、「職場体験」や「書道」の学習支援ボランティア活動など、「子供のためにできること」をコーディネーターと一緒に考え実践することができた。その活動を通して、児童は自分たちを支えてくれている地域の方々に対する感謝の気持ちを深めることができた。

一方で、コロナ禍により、学校公開日をはじめとする学校行事への保護者や地域の方々の参加や交流が限られた。そのため、ホームページ等で、学校行事や日々の児童の様子を公開し、周知に努めた。

働き方改革への取り組みについては、教職員一人一人の働き方への意識改革は進められ、改善が進んでいる。業務のスリム化や効率化をさらに進め、業務量の削減と質の向上に継続して努めていきたい。

2 学習指導について

昨年度に引き続き、体育科を研究教科として「よりよく生きるために学び続ける児童の育成」に取り組んだ。進んで学び続けていく児童の育成を目指して、個の学びを学級集団へ広め、互いに認め合いながら学習に取り組めるように工夫したり、休み時間や家庭の時間にも学びの場を広げたりして、研究を実践し効果を得ることができた。今後は、体育科で研究した、この取り組みをさらに他教科にも広げていきたい。

また、GIGA スクール構想のタブレット導入から2年目となり、話し合う場の工夫や発表する際に活用するなど、児童自らが主体的に課題解決に取り組み、自分の考えを深めることができるよう工夫してきた。さらに、学習における効果的な ICT 活用の仕方を考え、「楽しい授業・分かる授業・考える授業」の実践に向け、積極的に取り組んでいくようにしたい。

3 児童指導について

きまりやマナーを守るという規範意識については、児童の実態に即した分かりやすいルールへの見直しを行い掲示することにより、新たな共通意識をもとに規範意識が高まり、それを日常生活で実践する児童が増えた。これからも具体的な生活場面での直接的な指導の充実を図るとともに、繰り返しの指導が必要である。

時と場に応じたあいさつについては、あいさつ運動を運営する委員会の児童の様々な取り組みにより挨拶への意識づけができ、挨拶を積極的にできる児童が増えた。これからもあいさつ運動の日常化を図り、地域で登下校の際にも小中学生間で挨拶を交わせるようにしたい。また、道徳の授業を中心に教育活動全体で思いやりの心を育てることに重点を置いて取り組んでいくと共に教職員一人一人の人権感覚を高め、人権意識の向上を図っていきたい。

4 体力・健康について

新型コロナウイルス感染症や熱中症対策に留意しながらではあったが、児童会の呼びかけや縦割り班活動の内容を工夫したことで児童の遊びや運動の機会が増え、校庭で活発に活動する児童が多く見られるようになった。教科体育では、体育ノートやタブレットを活用し、振り返りの充実を図ったり授業づくりに関する研究を進めたりした結果、自分の目標を設定し進んで運動に取り組む児童が増えた。また、家庭と連携し学びの時間を広げたことで、児童は運動の楽しさや重要性を実感し運動習慣の基礎づくりを進めることができた。さらに、保健学習の充実にも努め、自分の体や健康についての関心を高め、より良い生活習慣の大切さを実感し実践につなげることができた。今後も、生涯にわたって健康に生きる児童の育成を、全校体制で図っていききたいと思う。

7 学校関係者評価

- 1 コロナ禍に於いて、地域ボランティアによる低学年の昔遊びや高学年による清掃ボランティアの体験等をする事は、良い経験だと思う。
- 2 一条中の英語教諭による授業では、英会話等、児童が楽しく英語に接する姿がみられ、必要とされる授業ができていくことに満足感を感じた。
- 3 学校の老朽化に伴う床のひび割れや、かがやきルームの床のでこぼこなど、大幅な改修工事が必要だと感じた。また、バリアフリー化も必要である。
- 4 学校と地域との関係は長く密にとれているが、家庭との関係は見えてきていないので、効果的な連携や協力が得られる活動を見られたらいいと思う。
- 5 ミシン実習のサポート、にしはらの日昔遊びのボランティアに参加した。子ども達は集中力、友達への思いやりがあり、参加者の声掛けに伸び伸びと答えてくれた。校長先生をはじめ、先生方の温かな指導が目に見えるようだった。悲しい事件が多すぎる世の中だが、どうか大きなハートのある心豊かな児童に成長するよう、ますますの指導をお願いしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 1 **学校運営面**
 - ・西原小学校としての誇りと伝統を大切にしながら、「元気 がんばり 思いやり」に基づく統一感ある学校運営に努めるとともに、効率的・効果的という視点も組み込みながら安心・安全な教育活動を推進していく。
 - ・地域とともにある開かれた学校づくりを重点目標とし、サポーター会議や一条地域学校園と連携を図りながら、「西原大家族」の創造に向けて、活動の目的を明確にしながら学校運営を進めていく。
 - ・保護者や地域の声を学校運営に積極的に反映させ、さまざまな機会を生かしながら情報の発信に努めることで学校理解を深めていただくとともに、可能な範囲での教職員の地域の活動参画を促し双方向の関係を構築する。
- 2 **学習面**
 - ・来年度も「よりよく生きるために 学び続ける児童の育成」をテーマとして、主体的・対話的で深い学びの授業を通して学びの実感をつくる工夫をはじめ、各教科等において継続的に意識化を図れるようカリキュラム・マネジメントを実施する。
 - ・小中一貫教育における「育てたい力」を学習指導に位置付けるとともに、データに基づく検証により9年間を見通した系統性ある学習を展開する。
- 3 **児童指導面**
 - ・いじめや不登校の根絶に向けて、連絡・相談・報告の機能をより強化し、未然防止の手立てや早期発見、早期対応、継続的な支援について学校全体で組織的・計画的に取り組んでいく。また、関係機関との連携のもとで、様々な支援が受けられる環境づくりを進める。
 - ・特別の教科道徳を中心にしながら、すべての教育活動の場を捉えて教職員及び児童の人権感覚を磨くとともに、規範意識や礼儀等を醸成する。また、学校内だけでなく地域でのあいさつの励行に努めていく。
- 4 **体力・健康安全面**
 - ・生涯スポーツを視野に入れた教科体育の充実を図るとともに、保健指導や食育を通して、自分の体や健康に関心をもって生活できる児童の育成を目指す。
- 5 **その他**
 - ・学校、保護者、地域の相互の連携をさらに強化し、歴史と伝統のある本地域の教育力を生かすとともに、地域の思いに応える学校づくりを進める。
 - ・地域ぐるみによる認め合うことやほめて育てる指導により、居心地のよい学校生活を送ることができるようにする。
 - ・校内の安全確保に関連して、老朽化する学校施設の整備に、保護者や地域と連携して対応の働きかけを行う。
 - ・学校支援ボランティアの参画促進や縦割り班活動の充実により、夢を育む教育活動をより一層、推進していく。